

安全データシート (SDS)

作成 平成 26 年 1 月 17 日
改訂 平成 年 月 日

1. 化学物質等及び会社情報

製品

製品の名称 防錆潤滑スプレー100mL CRG-556

供給者情報

会社名 ジェフコム株式会社
住所 〒579-8014 東大阪市石切町 3-13-16
担当部署 品質管理課
電話番号 072-988-3813
F A X 番号 050-3153-0378

推奨用途及び使用上の制限：工業用品

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響 アレルギー皮膚反応を起こすおそれ

特有の危険有害性

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類 分類対象外
可燃性／引火性ガス 分類対象外
可燃性／引火性エアゾール 区分 1
支燃性／酸化性ガス 分類対象外
高压ガス 分類対象外
引火性液体 区分 4
可燃性固体 分類対象外
自己反応性化学品 分類対象外
自然発火性液体 区分外
自然発火性固体 分類対象外
自己発熱性化学品 分類できない
水反応可燃性化学品 分類できない
酸化性液体 分類できない
酸化性固体 分類対象外
有機過酸化物 分類できない
金属腐食性物質 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 分類できない
急性毒性(経皮) 分類できない
急性毒性(吸入：ガス) 分類できない
急性毒性(吸入：蒸気) 分類できない
急性毒性(吸入：粉塵、ミスト) 分類できない
皮膚腐食性/刺激性 区分 3
眼に対する重篤な損傷性/目刺激性 分類できない
呼吸器感作性 分類できない
皮膚感作性 分類できない
生殖細胞変異原性 分類できない
発がん性 分類できない
生殖毒性 分類できない

標的臓器/全身毒性(単回曝露)
標的臓器/全身毒性(反復曝露)

分類できない
区分 3(麻酔作用)
分類できない
区分 1

吸引性呼吸器有害性
環境に対する有害性
水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(慢性)

分類できない
分類できない

ラベル要素
絵表示

注意喚起語 危険

危険有害性情報 (麻酔作用) 眠気またはめまいのおそれ
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
可燃性液体
極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
軽度の皮膚刺激

取扱注意
[予防策]

保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
炎および高温のものから遠ざけること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
加圧容器：使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。
熱/火花/裸火/高温のもの<のような着火源>から遠ざけること。一禁煙。
ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。

[対応]

火災の場合には、消火に二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤を使用すること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

[保管]

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

[廃棄]

内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS 分類に該当しない他の危険性

分類

高压ガス(可燃性ガス)、引火性液体。

危険性

可燃性ガスが入っている。引火及び高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。

有害性

:非常に燃えやすい液体である。高濃度の気体を吸入すると、弱い麻酔性のため一時的に神経系の機能低下を生じる恐れがある。又、液状のガスが皮膚に触れると凍傷を生じる恐れがある。

3. 組成・成分情報（混合物・危険有害性物質を対象）

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度 (質量%)	化学式又は 構造式	官報告示政令番号 (化審法)	(PRTR 法)	
防錆剤 混合物	スルホン酸 Ba	25619-56-1	明記できない	4-475	-	
	スルホン酸 Na	26843-28-6	防錆剤混合物 として	-	-	
	界面活性剤	577-11-7		$C_{20}H_{37}NaO_7S$	2-1623	-
	酸化防止剤 ※1	128-37-0	15.0~25.0	$C_{15}H_{24}O$	3-540 9-1805	第一種
	鉱油（流動パラフィン）	非公開	※2	非公開	2-308	-
合成パラフィン系炭化水素	68551-20-2 65072-03-9	35.0~45.0	非公開	2-10	-	
液化石油ガス	プロパン	74-95-6	5.0~15.0	C_3H_8	2-3	-
	n-ブタン	106-97-8	15.0~25.0	C_4H_{10}	2-4	-
	i-ブタン	75-28-5	5.0~15.0	C_4H_{10}	2-4	-

※1 酸化防止剤(2,6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール)は化管法 新規指定化学物質で第一種指定物質

※2 鉱油(流動パラフィン)は9.9~10.8%配合

4. 応急処置

以下のいずれの場合も医師の手当を受けること。

- 目に入った場合 :直ちに、清浄な大量の水で最低 15 分間洗い流す。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。さらに長時間洗浄を続けること。速やかに医師の手当てを受ける。洗眼の際、眼瞼を指で良く開いて、眼球、眼瞼の隅々まで水が良くいきわたるように洗う。
- 皮膚に付着した場合 :汚染された衣服、靴等をすべて脱ぎ、皮膚に付着した部分を直ちに水又は微温湯を流しながら洗浄した後、石鹼を使用してよく洗浄する。溶剤、シンナーは使用しないこと。ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
- 吸入した場合 :被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師の手当を受けること。蒸気、ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の手当を受けること。
- 飲み込んだ場合 :揮発性液体を含んでいるので、嘔吐させるとかえって危険が増す。無理に吐かせず、直ちに医師の手当を受ける。水で良く口の中を洗ってもよい。

最も重要な兆候及び症状 :特になし

応急措置をする者の保護 :救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

医師に対する :特になし

特別注意事項

5. 火災時の措置

- 消火剤 :二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火薬剤。
- 使用してはならない :棒状の水
- 消火剤
- 火災時特有の :火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。

危険有害性 特有の消火方法	火災によって有毒なガスを発生する恐れがある。 :作業は風上から行き、火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 火元の燃料源を断つ、大規模火災の場合は泡消火剤を使用して消化する。 初期火災の場合、粉末消火剤、二酸化炭素等を用いる。 大規模火災の場合には泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。 指定の消火器を使用すること。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 周辺火災の場合には、周囲の設備等に散水し冷却する。 移動可能な場合は、容器を速やかに安全な場所へ移す。
消火を行う者の保護	:消火者は必ず適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、有毒ガスが発生する為、自給式呼吸具等を装備する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急措置	:曝露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させる。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
環境に対する注意事項	:漏出液を下水や側溝等に流してはならない。 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 密閉した場所に入る前に換気する。 少量の場合は乾燥砂土・おが屑・ウエス等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。 大量の場合には盛土で囲って流出を防止し、液の表面を泡で覆い、安全な場所に導いて回収する。
二次災害の防止策	:付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。 床に漏れた状態で放置すると、滑りやすくスリップ事故の原因となる為注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。 火花を発生しない工具を使用する。 廃棄物は関係法規に従い処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意（関連法規に準拠して作業すること）

取扱い

技術的対策	:静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。 適切な保護具を着けて作業すること。 工具は火花防止型の物を使用する。
局所排気・全体換気	:屋外又は換気のよい場所で取り扱うこと。
安全取扱い注意事項	:周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取り扱いをしてはならない。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。 加圧容器:使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。

使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
 漏洩を防止する。
 温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
 取扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合には着替える。
 酸化剤との接触禁止。
 吸い込まない。
 密閉された場所における作業には十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
 静電気対策を行い、作業衣・作業靴等は通電性のものを使用する

保管

適切な保管条件

: 幼児の手の届かない所に置くこと。
 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
 缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
 火気、熱源、スパーク、静電気蓄積を避ける
 40℃以上になる所には置かないこと。
 危険物の表示をして保管する
 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに、同一場所での保管を避ける。
 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料

: 高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

: 取扱い設備は防爆型を使用する。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 室内使用の場合、密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。
 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

曝露限界値

成分名	管理濃度 (安衛法)	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
スルホン酸 Ba	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
スルホン酸 Na	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
界面活性剤	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
酸化防止剤	設定されていない	設定されていない	2g/m ³ (IV)	設定されていない
鉱油 (流動パラフィン)	設定されていない	鉱油ミストとして 3g/m ³	設定されていない	設定されていない
合成イパラフィン系炭化水素	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない
液化石油ガス	設定されていない	設定されていない	プロパン 2500ppm ブタン 800ppm 以下	設定されていない

(IV) inhalable fraction and vapor

保護具

呼吸器の保護具

手の保護具

必要に応じて着用する

有機ガス用防毒、防塵マスク、密閉された場所では送気マスク、空気呼吸器。

不浸透性の保護手袋。

目の保護具 保護眼鏡、ゴーグル型、防災面。
 皮膚及び身体の保護具 作業内容に応じて不浸透性保護衣、前掛け、通電性の靴等。
 適切な衛生対策 作業中は飲食、喫煙をしない。
 取扱い後は手をよく洗う。

9. 物理的及び化学的性質, 危険性情報

	内容液	噴射剤
状態	液体	大気圧下 ガス状、 圧力容器内 液状
外観	淡褐色	無色透明
臭い	香料臭 (ルゾの香り)	無臭
pH	データなし	該当しない
融点	データなし	-187.7~-138.4℃
沸点	データなし	-42.1~-0.5℃
引火点	86℃ (密閉式、合成イソパラフィン系炭化水素として)	-104.4~-73.8℃
発火点	データなし	405~550℃
爆発範囲	データなし	1.8~9.5vol%
蒸気圧	データなし	0.278~1.275MPa (40℃)
蒸気密度	データなし	1.895~2.538kg/m ³ (1MPa、15.6℃)
比重	0.82 (20℃)	0.556 (20℃)
溶解性	水に不溶	水に微溶
オクタール/水分配係数	データなし	データなし
分解温度	データなし	データなし
その他	データなし	データなし

10. 安定性及び反応性 (製品として)

安定性 40℃以上になると破裂の恐れがある。
 常用温度で缶内圧は約 0.40MPa。
 危険有害反応可能性 酸化剤や過酸化物との接触で火災や爆発を起こすことがある。
 ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。
 避けるべき条件 高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。
 混触危険物質 混触危険物質との接触。
 過酸化物、強酸化剤。
 危険有害な分解生成物 燃焼により有害なガス(一酸化炭素や窒素酸化物等)を発生する。

11. 有害性情報 (内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む)

急性毒性(経口) : (製品のデータ) 情報なし
 (成分のデータ: 防錆剤混合物) LD50 (推定) : 5g/kg
 (成分のデータ: 合成イソパラフィン系炭化水素)
 ラット LD50 > 2000mg/kg 以上 (限度試験: 蒸留範囲が若干異なる製品の結果) C12-C17 の
 n-, iso-パラフィン、シクロアルカン混合物で 5000mg/kg のデータあり
 急性毒性(経皮) : (製品のデータ) 情報なし
 急性毒性(吸入: ガス) : (製品のデータ) 情報なし
 (成分のデータ: プロパン) モルモット LC50 (2 時間) > 55000ppm

モルモット LC50 (4 時間) > 38890ppm (ACGIH 7th, 2001)
ラット LC50: 277374ppm/4h

- (成分のデータ: n-ブタン)
- 急性毒性(吸入:蒸気): (製品のデータ) 情報なし
- 急性毒性(吸入:ミスト): (製品のデータ) 情報なし
- 皮膚腐食性/刺激性: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 防錆剤混合物) 液は皮膚に対して弱い刺激性がある。
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) ヲキ[®] で中ぐらいの皮膚刺激性 PII=3.7 (蒸留範囲が若干異なる製品の結果)
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 防錆剤混合物) 高濃度の蒸気 (約 1000ppm 以上) またはミストは、眼を刺激する。
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) ヲキ[®] で刺激性なし
- 呼吸器感受性: (製品のデータ) 情報なし
- 皮膚感受性: (製品のデータ) 情報なし
- 生殖細胞変異原性: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) (C10-13 を主成分とする n-, iso-パ ラフィン及びシクロアルカンの混合物では in vitro、in vivo とも陰性) 本製品は C12-C16 の iso-パ ラフィンであり変異原性はないと推定される。
- 発がん性: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) 国際的機関で発がん性と評価された例はない。
- 生殖毒性: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) データなし (C10-13 を主成分とする n-, iso-パ ラフィン及びシクロアルカンの混合物では生殖毒性なし。同属物質であり生殖毒性はないと推定される。)
- 特定標的臓器/
全身毒性(単回曝露): (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: プロパ^ン) ACGIH の人への影響として麻酔作用を示すとの記述がある。
(成分のデータ: n-ブタン) ACGIH 及び産衛学会勧告の人において高濃度吸入で麻酔作用または中枢神経系抑制を示すとの記述がある。
- 特定標的臓器/
全身毒性(反復曝露): (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 防錆剤混合物) 液と長期間又は繰返しの接触は、皮膚の脱脂、乾燥、ひび割れを起し、皮膚炎になることがある。
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) データなし (C9-13 を主成分とする n-, iso-パ ラフィン及びシクロアルカンの混合物の 12 週間吸入試験で NOAEL=2000mg/m³。同属物質でさらに分子量が高いので、このものよりも毒性は低いと推定される。)
- 吸引性呼吸器有害性: (製品のデータ) 情報なし(原料のデータを参照して判断した)
(成分のデータ: 防錆剤混合物) 19.7mm²/s (40°C)
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) 炭化水素で粘度が低く、肺に入れると危険。
2.53mm²/s (40°C)
- その他の情報: (製品のデータ) 情報なし

1 2. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性: (製品のデータ) 情報なし
(成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) 水に対する溶解性が極めて低く、溶解度以下では有害影響はないと推定される

水生環境慢性有害性 : (製品のデータ) 情報なし
 (成分のデータ: 合成イパ ラフィン系炭化水素) C8 以上のイパ ラフィンは概ね難分解性であるが、
 低蓄積性
 その他 :

13. 廃棄上の注意

廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。
 残余廃棄物 : ガスを完全に抜いた後の内容液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか
 又は、容器に穴を開け、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
 その場合は有害性ガスを発生する為、洗浄装置の無い焼却炉を使用しないこと。
 容器、機械装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
 汚染容器・包装 : 中身を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意

・「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

輸送の特定の安全対策及び条件 運搬に際しては容器を 40°C以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように
 積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制	
陸上輸送	消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
国際規制	
国連分類	IMDG コード class 2.1
国連番号	1950

15. 適用法令

労働安全衛生法	引火性液体、通知対象物質 (2, 6-ジ-ターシャリーブ-フル-4-クレゾール、鉍油、フタ、) ※ 2, 6-ジ-ターシャリーブ-フル-4-クレゾールは配合量が不明だが、0.1%以上の配合量 とみなし、通知対象物質とする。
船舶安全法	高压ガス、引火性液体
航空法	高压ガス、引火性液体
高压ガス保安法	適用除外 (液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス) 但し、政令告示並びに高压ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	第四類第三石油類
危険物船舶運送及び貯蔵規則	IMDG コード class 2.1 (UN No. 1950)。
毒物及び劇物取締法	該当しない。
大気汚染防止法	有害大気汚染物質 (2, 6-ジ-ターブ-フル-4-メチルフェノール:BHT)
海洋汚染防止法	ブテンオリゴマー、X 類物質 (合成イパ ラフィン系炭化水素)、油分排出規制 (原則禁止: 防錆剤混合物)
水質汚濁防止法	分排出規制 (原則禁止: 防錆剤混合物)
廃棄物の処理及び清掃に関 する法律	産業廃棄物規則 (防錆剤混合物: 流出の防止)
下水道法	鉍油類排出規制 (防錆剤混合物)
PRTR 法 (新規指定化学物質 H20/11/21 公布)	第一種 (2, 6-ジ-ターシャリーブ-フル-4-クレゾール)

16. その他の情報

参考文献 原料 SDS

液化石油ガス SDS

化学物質管理促進法対象物質全データ

労働安全衛生法対象物質全データ

毒物及び劇物取締法対象物質全データ（化学工業日報社）

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。
